



福井商工会議所青年部会会報

福居



会 報

第 3 6 号

昭和63年 4月22日発行

発行 所

福井商工会議所青年部会

発行責任者

小 川 修



会場の福井商工会館五階大ホールは、福井のシンボル足羽三山に対する市民の期待と熱気で真冬の熱い一日となった。

足羽三山に

新たな歴史の一ページ

第11回
市民の広場

真冬の熱い一日

スライドでイメージ湧く

去る二月二十七日、「市民の広場」開会十五分前ともなると、参加者は続々とつめかけ予測を超える人数となり、青年部員達は追加のイス運び入れるのに大忙しとなった。

午後一時三十分、司会者の挨拶に続いて会場が暗くなり足羽三山紹介スライドが、女の子のナレーション入りで上映されていった。

三百人余りの参加者達は、思い思いの足羽三山に対するイメージを抱きながら、画面に映される美しい風景に吸い寄せられていた。

「足羽山は歴史の舞台」

続いて福井テレビジョン放送社長で郷土史家でもある青園謙三郎氏の「足羽山のふもと、そこは歴史の舞台であった」というテーマの記念講演が行なわれた。

その内容は、福井の歴史の中で、足羽山を中心とする足羽三山のふもとは、現在発掘される古墳などからわかるように、古くから

人が居住し、歴史的に非常に意義のある場であることに、正倉院にある三枚の福井県地図、継体天皇、柴田勝家等の話題を通して訴えるというものだった。

青園氏の卓越した知識と人格のにじみ出した話しぶりに、参加者達は真剣に聞き入り、足羽三山に対する愛着をますますつのらせていった。

足羽三山はこのままでよいか

いよいよ第一部が始まり、小川青年部会長から、これまでの市民の広場、ならびに今回の市民の広場の開催趣旨について、また、足羽三山への青年部活動の経緯の発表があった。

続いて、地域活性化委員会副委員長の大須賀廣美君が、足羽三山の現存施設の状態、抱える問題、地理的位置づけ、市民利用度、今後に寄せる期待、意見、関連団体の紹介などを、スライド、アンケート結果資料等を駆使して説明していった。

そして、「福井の中心部にこれだけの素晴らしい緑あふれる自然のゾーンがあるが、あまり人が寄りつかず、放置されているのが現状である。果たしてこの福井市民の財産でもあるこの山をこのままにしておいてよいのであろうか」と訴えた。

足羽三山の有効な活用

開発が求められる

第二部は午後三時より始まり、先ず、足羽三山絵画コンクールの表彰式が行なわれた。このコンクールは、市民の広場開催に向けて、市民の意識喚起と盛り上げを目的として、主に市内小中学生を対象に募集し、多くの作品が寄せられた。

入賞した子供達は、小川修会長より賞状と賞品を受け、とても嬉しそうだった。続いて、当日のメインである、『足羽三山への青年部の主張』が市民の広場委員長永井弘明君より述べられた。その内容は、都市の個性、アメニティー、ホスピタリティーの三つの観点

から見れば、福井市の活性化には、足羽三山の有効な活用、開発が求められる。

そのためには、自然と親しむ場、人々の集う場、もてなしの場としての足羽三山にすべきだと主張し、具体的に、交通、景観ゾーン、歴史・文化・芸術、国際交流、市民が参加できる記念植樹といったことが提案された。最後に、足羽三山を、市民の総意でつくる市民の山、市民の杜にしていくことを呼びかけた。

「開発」に危惧を抱く意見も

この後、討論会に移った。林逸副会長が進行役を務め、アドバイザーに福井大学工学部教授玉置伸伍氏を招き、足羽三山の重要性及び開発・活用への取り組み方について参加者より意見を求めた。

参加者の意見には次のようなものがあった。『足羽三山のみ開発にとらわれることなく、足羽川―足羽山―運動公園等の有機的な連携を図るべきで

はないか。』

『足羽三山の開発についてもっと明確な理由と調査が必要ではないか。騒音が絶えない今日、唯一静かな場所としての価値を足羽山に求める人もいる。また、次代の人が本場に福井市にとって足羽三山の開発を望んだ時のため、今開発を推し進めてしまうことについて、もう少し深く考える必要があるのではないか。』

玉置教授のアドバイスは

『公園とは人々に魅せるためのものであり、象徴するものである。足羽三山を都市公園として相応しいものにしていくとともに、市民の山、市民の杜であることも忘れずに、市民植樹等市民で創っていく山にすることも大切である。』

『山に相応しい施設、シンボルゾーンとして相応しい施設を創出していくことが必要である。』

ンボルゾーンとして相応しい施設を創出していくことが必要である。』

市民と行政が一体となって以上のアドバイスをうけ、奥村副会長が総括に入った。『今回の市民の広場は市民の意見を聴き、討論の場を展開することが目的であった。今回の市民の意見を参考に、足羽三山開発、活用へ向けて、市へ要望書を提出するとともに、どうしたら足羽三山を『市民の山』『市民の杜』にしていくことができるか、さらに検討していきたい。当青年部としては、次年度の組織の中に足羽三山を専門に取り組み活動する委員会を設け、足羽三山活性化に向けて、市民と行政の一体感をはかれるよう活動していきたい』と述べて締めくくった。

『山に相応しい施設、シンボルゾーンとして相応しい施設を創出していくことが必要である。』



青年部の活性化をめざす

会員アンケート

結果まとめ

わが青年部は、百名近い会員数を誇りながら、例会等参加者は三十〜四十名にすぎない現実はなんと寂しいことでしょうか。青年部を原点から見つめ直し、活性化を図る方策を確立するため、本格的なアンケートを実施する必要性を痛感した次第です。

役員をはじめ会員のご協力を得て六十二名にのぼる回答を基に、集計分析を行った結果について本紙に連載するとともに、新年度から創設された「長期ビジョン策定委員会」に引継いで当青年部の今後のあり方を検討する資料として、有効活用がなされるならばこれにまさる幸せはありません。

六十二年度副会長

林逸男

A、調査の概要

一、調査の目的

当青年部の実態と意識を把握し、その問題点を探り、今後のあり方を検討する参考として実施

二、調査時期

昭和六十三年一月五日〜二月二十五日

三、調査対象と方法

当青年部の会員全員にアンケート用紙を郵送して調査を実施

四、アンケートの回収状況

有効回答数 六十二人

総会員数 九十二人

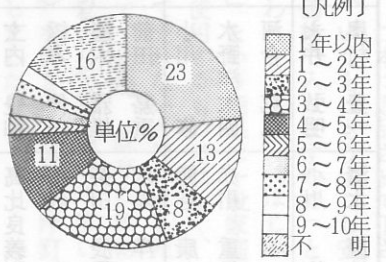
回収率 六七・三%

B、調査結果の分析と要約

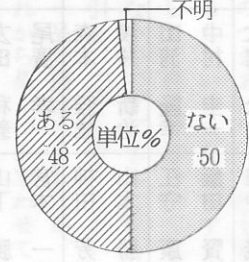
一、入会経歴

入会歴一〜四年の人が約%を占める。不明の六%は十年以上(つまり創立以来の人)と考えられるが、五〜十年組が極端に少ないことは、定年

【入会経歴】

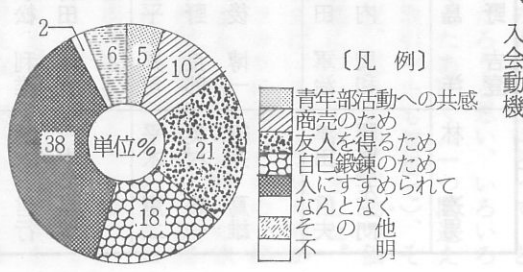


【役員経歴】



制との関係もあろうが、息の長い活動をする会員が少なく、物を語って、当青年部のあり方に課題を残している。

【入会動機は】



人に勧められて入会した人が約四割を占める。青年部活動への共感が動機となっている人は五%と低迷しており、青年部活動の内実あるいは青年部活動そのもののPRなどを検証する必要がある。

冒頭にもあるようにこのアンケート結果の続きは、次号以降に連載いたします。

時計・宝石の新しい形のお店ができました!

Tit Collection

本店・ジュエル・ウォッチ ウエノ
福井市順化1-17-11
☎(0776) 23-4835

ティットコレクション/福井市中央1-12-11/Phone 0776-26-2011

永井建築設計事務所

ARCHITECTS & STRUCTURAL ENGINEERS ASSOCIATES

〒910 福井市宝永1-14-13 TEL (0776) 27-7153 FAX (0776) 27-7063

福井市和田2-2113サカヨシBldg.205号 TEL・0776/21-5322 FAX・0776/21-9285

企業訪問

不動産鑑定士

林 逸男事務所



所長 林 逸男

所在地

福井市大願寺二丁目九一

福井開発ビル六階

電話 二七―二五九五

創設

昭和五十七年一月

(行政書士事務所併設)

業務内容

売買、交換、担保、争訟、相続、賃貸借等に際しての鑑定評価。売買、賃貸借、建設業許可等官公署諸手続

今回は副会長である不動産鑑定士の林逸男さんの事務所に伺いました。

「不動産鑑定士って何ですか？」

「よく聞かれるんです。そ

こで『不動産の適正な価格(賃料)』を決めるんです」といつも答えるんですが

「売手と買手の話し合いで決まるんじゃないですか」

「もちろんそうです。しかし課税上の不服申し立や裁判上の争いの場合、財産相続で不動産を分配する時など鑑定評価が必要になることは容易にわかっていただけるでしょう」

「なるほど、不動産の価値をめぐって世の中のモメゴトが多いと、林さんが儲かるわけですか」

「そうですね。そうです。しかし、そればかりではありません。不動産の売買をする時、不動産を担保に事業資金を借りる時、地代の改訂する時など、鑑定評価書があれば交渉がスムーズに運びますし、交渉の資料として有効に活用できます」

「不動産の総合的な便利屋さんということですね」

「まだまだ取材はつづぎましたが、紙面の都合により割愛しました。」

みなさんよろしく

― 新人会員プロフィール ―

太田 公二

昭和三四年九月二九日生

(尚) 太田 屋

福井市高柳町三九一

中川 芳男

昭和二三年九月八日生

福井製作用所

福井市高木中央

電話 一〇一〇〇七

田中 義一

昭和三一年八月三十一日生

福井市西開発四丁目五〇一

電話 五三一一〇八

五十嵐 長

昭和二二年三月三日生

福井市大手三三四一

電話 二六―二〇〇二

山口 透

昭和三五年二月二日生

坂井郡芦原町舟津四三二六

電話 七七一―二五五五

鎌田 博幸

昭和三四年四月二日生

(尚) 鎌田 タイル技工

福井市文京一―一―一

電話 二二一六〇〇八



カタカナ職業あれこれ

いま、アルバイト(副業)の世界では、耳慣れないカタカナ職種がふえてきている。たとえば、

〈サムタイム〉
いつでもお好きなときに働きにきて。パートタイムはもう古い?

〈テレホン・アポイント〉
電話で鍋釜、印鑑などの出張説明や販売の約束を取りつける人。いわば、電話専門のセールスマン。

ほかにも、〈ディッシュ・ウォッシュャー〉は血洗い、〈シーター〉はレストランで客を席まで案内する係、〈フロア・レディー〉はホステスさんの新しい呼び名……

軽薄短小時代の若者には、カタカナ職種がどうやらカッコイイらしい。評判も上々で、人集めにはもってこいだという。

デジタルだから鮮明、クリエイティブ、キャノンカラーレーザーコピー!

キャノンフルカラーコピーキャンペーン中

北陸キャノンコピー販売(株) 福井営業所

福井市木田1丁目3305 TEL 35-0015

商工会議所青年部 佐々木 清史

取扱商品: キャノン複写機 FAX コープロ シュレッダー ボードコピー 製本機 ジアソ複写機